



> みんなのコード

特定非営利活動法人 みんなのコード

2018年度活動報告書 / 2019年度活動計画書



私たちのビジョン

子どもたちがデジタルの価値創造者となることで、 次の世界を創っていく。

■ デジタルの価値創造者とは…?

ゲームで遊んだり、オンラインで動画を見たりする価値の消費者ではなく、ゲームを作ったり、自己表現をしたり、課題を解決したり、デジタルで価値を創る姿を目指して欲しい。その上で、子どもたち自身が次の世界を創っていく姿である。



■ みんなのコードのアプローチ

みんなのコードは、来年度に迫ったプログラミング教育必修化を目前にして、企業・行政と協力し、学校の先生を支援することで、子どもたちへのプログラミング教育の充実を図っています。



＞なぜ、このアプローチ?

習字・水泳・調理など子どもたちに新しいことを体験・学習をさせるプロである小学校の先生と協力することで、すべての子どもに「継続的に」プログラミング教育が行き届きます。また、日本では教員同士で情報を共有する文化が浸透しているため、先生が他の先生にプログラミング教育の教え方を教え、広めていくことも可能です。そこで「具体的な授業イメージがわからない」「周りに同じ志の人が少ない」といった悩みや不安を抱える先生を積極的にサポートしています。

私たちのミッション

全ての子どもがプログラミングを楽しむ国にする

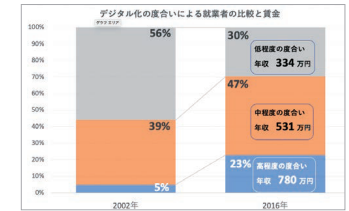
1 全ての子どもが

＞なぜ、全ての子ども?

コンピュータを活用する仕事は高い付加価値を生み出すことができ、長期的にその割合は増加傾向に有ります。みんなのコードはその機会が経済的に恵まれた家庭環境の子どもに限定されないよう、全ての子どもへの機会提供を目指しています。

未来のあり方を正確に予測することは困難ですが、過去の実績から傾向は予測できます。右の図は、アメリカの「メトロポリタンポリシープログラム」が2017年11月に公表したデータです。冒頭に「過去半世紀にわたるデジタルイノベーションの波は、次々にデジタル化・デジタルの普及により、ほぼすべてのビジネスにテクノロジーを届け、アメリカの新たな経済と労働の世界を創出した。」と書かれています。

日本においても、同様の傾向にあること、これからも続く事は容易に推測できます。みんなのコードは、子ども達がそのようなデジタル社会で活躍し、より豊かに生きるための支援を続けていきます。



アメリカのデジタル化の度合いに従事する、労働者の割合と賃金を表したグラフ。2002年度は、高い度合いに従事する労働者は5%だが、2016年には約5倍に増加。反して、低い度合いは半減している。また、年間賃金も低い度合いの約2.5倍の賃金を高い度合いの労働者は得ている。

2 プログラミングを楽しむ

＞なぜ、プログラミングを楽しむ?

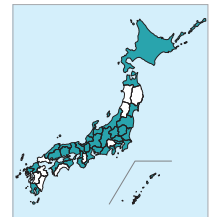
プログラミング教育を実践しようとする、しばしば「大人の事情」が出てきてしまいます。例えば「学習指導要領上の扱い」や「IT人材の不足」といった事柄です。しかしながら、**私たちが全国での実践を通じて感じるのは、「大人の事情」よりも「子どもがプログラミングを楽しむ」ことを優先することが重要だ**ということです。それによりデジタルの価値創造者への第一歩を踏み出すだけでなく、結果的に学習指導要領で育むべき資質能力の育成に繋がりますし、将来のキャリアにITを選ぶ可能性も上がると考えられます。



3 国にする

＞なぜ、全国で?

内閣官房情報(IT)総合戦略室によれば、プログラミング教育の浸透は東京で先行し、大阪で1年、その他の地方でもう1年遅れて実現していると言われてます。**児童数でいうと首都圏(1都6県)の占める割合は全国の32.5%であり、児童の過半数は地方で学校に通っています。**そこで、日本の公教育の強みである「質の均一性」を十分に活かし、地域間の情報格差・教育格差を縮めることで、日本の子どもたちの将来をもっと明るくすることが出来ます。みんなのコードは、全国の行政とも協力することにより、主要都市だけではなく全国の子どもたちにより良いプログラミング教育の機会を提供することを目指しています。



みんなのコードが支援した自治体

～人のアプローチ～

Step1 プログラミング教育明日会議 ～プログラミング教育を、学び・体験してもらおう～



「プログラミング教育明日会議」は、小学校の先生・教育委員会の方など教育関係者に対して行われるプログラミング教育必修化を考えるシンポジウムです。国としての狙いや必修化の背景にある社会の変化から、先行して授業を行った先生の事例共有や模擬授業、教材研究、先生同士の情報交換を通して、プログラミング教育について全体感を体系的につかんでもらいます。

2018年度は、全国9都市で2,000人以上が参加しました。

2019年度は8都市での開催も決定しております。(3月時点)

また新たに、管理職・指導主事向けの明日会議も計画しております。

参加した先生の声

まずは知ることから始めるべきだと思うので、もっといろんな人に参加して刺激を受けてほしい。模擬授業では具体的な授業イメージが、先行事例報告では実践者の手応えが得られてよかったです。プログラミング教育に取り組める第一歩を踏み出せました。

Step2 指導者研修会 ～プログラミング教育に、興味関心を持ってもらう～



指導者研修会では、各自治体や教育委員会の要請により、その地域の小学校教員に対して集中的にプログラミング教育についての理解を深めてもらうことを目的としています。2018年度も、全国各地で研修会の依頼があり、全国30都市以上で、一研修あたり平均約50人の先生方に参加していただき、累計1,500人以上の先生方が参加されました。

その他、教育関係の企業数社の方々にも、研修会を開催いたしました。

参加した先生の声

丁寧にご指導いただき、低・中・高学年と段階を追ってどのように指導すべきかのイメージが持てました。技術の進化に合わせた教育の変化の重要性を感じると同時に、プログラミングがもっと簡単なものだと、敷居を低くしてもらったおかげですぐに学校で実践できそうです。

Step3 プログラミング指導教員養成塾 ～プログラミング教育について、実際に授業をしてもらう～



「プログラミング指導教員養成塾」は、プログラミング教育必修化の背景を掴み、実際にプログラミングの授業を行い、周囲に広めることのできる教員の育成を目的とした通期の講習会です。少人数で開講され、講座の中では、実際に指導案を考えてもらったり、自身の学級で授業を行っていただき、プログラミング教育についてより深い理解・知見を得てもらっています。2017年度に75名の卒業生、2018年度は全国20都市(北は北海道から南は石垣島まで)で開催され、460名の受講生が

卒業しました。また、2019年度には8都府県、17都市の教育委員会とのタイアップも予定しており、2000人のプログラミング指導教員を養成する3年計画(支援: Google.org)の2年目となります。

参加した先生の声

プログラミング教育の基礎を学ぶことはもちろん、「プログラミング教育に関する正しい知識を広めたい」「子どもたちの将来を考えた教育が必要」といった同じ思いを持った先生方に会える機会はまだありません。

～テクノロジーのアプローチ～

> プログル 算数編 ～学校の授業で使えるオンライン教材～ <https://proguru.jp/>



「Proguru」はみんなのコードが開発するドリル型プログラミング教材です。小学校算数の公倍数や多角形の単元などに取り入れることができ、単元の復習はもちろんのこと、プログラミングの考え方も学ぶことができます。2017年4月18日のリリース以来、授業に特化したweb教材として多くの児童および先生方に使用していただき、2019年3月の時点で累計で26万人以上の方に体験していただきました。現在、「多角形コース」「公倍数コース」「平均値コース」がリリースされています。2019年春には、新コースのリリースも予定しております。

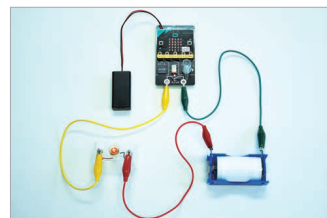
体験した子どもの声

正多角形をコンパスや分度器を使わないで、外側から書くことで、正多角形の「辺の長さが同じ、角度が同じ」ことが、よくわかりました。

体験した子どもの声

書きたり消したりしなくても、何度も簡単に繰り返して、自分で考え直せる事が、楽しかったです。考える事が楽しくなりました。

> プログル 理科編 ～「電気の利用」の学習に必要なキット教材～



「Proguru 6年理科電気キット」2019年度リリース

新学習指導要領に例示されている「電気の利用」の学習に必要なものを1枚のボードに集めた教材です。これさえあれば、子どもたちの教科の学びとプログラミング的思考の両方を深めることができます。

「学校の先生が使いやすい」理科教材キットを学校現場に届けたいの思いから、このたび、TFabWorks、スイッチエデュケーションとみんなのコードが共同でつくりました。

> プロカリ ～プログラミング教育の実践事例集～ <https://procurri.jp/>



プロカリとは、プログラミング教育を取り入れた授業を実施するために参考になる事例を集めたサイトです。掲載した事例は、どれも実際に行われたもので教科のねらいとプログラミング的思考の育成が関連付けられたものを厳選しています。先生方が授業を実施する際の具体的なイメージをもてるよう、関連する指導案・ワークシート・写真などを載せています。

「2020年に小学校でプログラミング教育が必修化されるけど、どの科目で、どの単元で、どうやって実践すればいいんだろう・・・?」「具体的な実践事例が知りたい」「コンピュータが苦手な先生方にもオススメできる活用例が知りたい・・・」等の悩みも解決します。

年間を通した「行政支援」

東京都プログラミング教育推進校 支援

東京都教育委員会は、各自治体毎に推進校（全都で75校）を指定して、2018 / 2019年度の2年間、実践的研究を各自治体の教育委員会と連携して推進しています。みんなのコードは、離島の三宅島も含めて、75校のうち8校とマッチングという形で、教材紹介や教員研修、授業支援、研究授業の助言にあたっています。今年度は地区発表の支援も、視野に入れております。



ソフトのキャラクターになりきる先生

和歌山県 小中高カリキュラム開発支援

和歌山県教育委員会は、小学校・中学校・高等学校において、発達の段階に応じた体系的なプログラミング教育を実施するとともに、クラブ活動に外部人材を指導者として派遣することで、専門的な知識・技術の習得を支援し、将来、IT分野でリーダーとなり得るような人材を輩出することを目指しています。みんなのコードは、各校種の指導計画と各指導案とワークシート等を作成して、和歌山県教育委員会と連携して先生方への研修会を実施しました。



神戸市校長研修会「Urban Innovation KOBE」

神戸市は、行政とベンチャー企業等が協働し、新たな地域課題解決プロジェクトとして、「Urban Innovation KOBE」を始めました。7つのプランの1つ



「小学校プログラミング教育指導者研修」を、みんなのコードが担当しました。市内162校のうち、約30名の校長先生方が2時間×2回の導入の背景や文科省の情報、模擬授業、教材体験、グループワークと充実した研修会が開催されました。結果、今年度、神戸市においては中核教員(60名)養成として、継続した研修会の実施となりました。不安感が強かった校長先生方から「見通しがもてて安心した」という声が多く聞かれました。全国でも例の少ない「プログラミング教育・管理職研修」の1つのモデルができました。



総務省 (地域ICTクラブ)

2018年度総務省では「地域におけるIoTの学び推進事業」に係る実証事業として「地域ICTクラブ」を展開しました。みんなのコードは石川県加賀市と共同で、課外の時間に主にmicro:bitを活用し、小学生～80代まで幅広い年齢層の方々が30名ほど集まり、楽しく学び合うことでICTに対して高い興味関心を示す子どもたちを増やす取り組みを行いました。



東京都小学校プログラミング教育研究会 支援

東京都教育委員会は、今年度より小学校プログラミング教育研究会 (略称・都小プロ) を正式に、教員の研究団体として認可しました。みんなのコードとしては、養成塾の修了した先生、東京都の推進校の先生方も関わりますので、最大限の支援をしております。

各種事業

Hour of Code JAPAN 2018

参考動画URL <https://bit.ly/2G5WhMi>

Hour of Codeは米国でコンピューターサイエンス教育を普及させているNPO団体Code.orgが主催する啓発キャンペーンです。日本では毎年さまざまな企業やコミュニティが、本キャンペーン中 (毎年12月の第一週目) にプログラミングイベントを行います。みんなのコードはCode.orgの国際パートナーとして、毎年、学校現場での実践や地方での体験イベント開催を、企業の皆様とともに盛り上げています。

2018年は、これまでのイベント形式の取り組みから大きく方向転換し、みんなのコードパートナーの企業様等から「Creativity is...」をテーマにメッセージ動画をいただきました。累計20万人以上の教育現場や一般の皆様がプログラミング教育、ひいてはコンピューターサイエンスのモチベーションをアピールしていただきました。



micro:bit ファンミーティング

Micro:bit教育財団はイギリスに拠点をもち教育用マイクロコンピューターを世界中に広める活動をしているNPO団体です。micro:bit は日本をふくめ、50カ国以上で愛されている教材です。

みんなのコードは、Micro:bit教育財団の公式パートナーとして、2018年度は2回micro:bitを使ったワークショップを開催しています。2018年にCEOも招待して開催したmicro:bitファン向けイベントでは、教育関係者約100名にご参加いただきました。また、日頃の研修や実践でも、教材紹介や指導案の提供を通して、先生方にmicro:bitの活用を促し、NPOパートナーとして非常に友好な関係を築いています。



議員連盟 都内公立小学校訪問

超党派の「教育における情報通信 (ICT) の利活用促進をめぐり議員連盟」に所属する8名の国会議員の方々が、みんなのコードのコーディネートのもと、杉並区立天沼小学校を訪問しました。当日は、授業参観のほか教材体験もされました。こども同士が協力して課題解決に取り組む様子を目にした議員からは、感嘆の声があがっていました。



内閣官房 教育再生実行会議 技術革新ワーキンググループ

弊法人の代表、利根川は「激変する国際情勢、社会構造・産業構造などに対応し、多方面で活躍する人材の育成が不可欠であり、新たな時代に対応した学校教育とはどのような姿であるべきか、また、生涯にわたり求められる能力はどういったものであるかについて、検討すること」を目的とした、教育再生実行会議、ワーキンググループの委員を務めています。



▶ プログラミング教育体験者の声

先生が熱く語る

「2018養成塾 in 岡山」特別支援学級での取り組み

倉敷市立豊洲小学校 片岡 暁子 先生

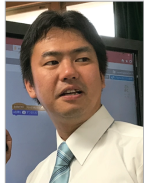
岡山県で行われたプログラミング指導教員養成塾に参加し、みんなのコードの活動やプログラミング教育について知りました。プログラミングの教材に触れたり、他の先生方の実践を聞いたりして、やってみたいという気持ちになり、特別支援学級でコード・A・ピラーを使って実践することにしました。子どもたちは、すぐにA・ピラーに興味をもち、遊びをながら考えることを体験することができました。「エサをあげよう」という課題を設定すると、ゴールまでの動きを考え、友達と一緒に試行錯誤を繰り返しながら、いきいきと活動に取り組む姿が見られました。プログラミング教育では、論理的に考えたり、友達と協力して活動したりすることが得意ではない子どもでも、苦手意識を感じず、楽しく学ぶことができたと実感しました。そして、私自身も一緒に楽しく学ぶことができました。これからも楽しく感じる授業を目指して実践を積み重ねていきたいと思っています。



「プログラミング教育研究会」を発足

尼崎市立園田小学校 林 孝茂 先生

プログラミング指導教員養成塾で学んだことを活かして、尼崎市で「プログラミング教育研究会」を立ち上げました。様々な教科と関連づけたシンプルなプログラムで、誰でも簡単にできる授業づくりを目指し、日々実践を重ねています。環境整備や費用が必要である部分もありますが、全てがそうではなく、誰でもすぐに取り始める教材はたくさんあります。養成塾では、全国の先生と繋がりができ、そういった情報を交換し合えるのもとても心強いです。プログラミング教育はプログラム作りを通して教科の学びを獲得していく手立てとしてとても有効です。教師が子どもに教えるのではなく、共に学んでいくことができるので、楽しみながら取り組んでいきたいと考えています。これからも楽しく感じる授業を目指して実践を積み重ねていきたいと思っています。



楽しく取り組んだ「全国のこども達の声」

仙台市立南光台東小学校
3年 小野寺 璃乃 さん

私はベッツに命令を出してケーキをゲットするプログラミングの勉強をしました。初めてプログラミングをしたとき、こんなもあるんだと思いました。プログラミングは難しかったです。でも、チームのみんなと考えました。「こうすればいいんじゃない?」と話し合いになりました。最初、ベッツのしくみに気づきませんでした。でもやっているうちに分かってきました。回転? 2マス進む? 間違えてばかりだったけれど、自分の思い通りにプログラムして、その通りに動いたときは、チームのみんなとハイタッチをしました。今度はルーペを使って簡単に命令を出す方法をやってみたいです。



三宅村立三宅小学校
3年 沖山 汐 さん

僕は「ビスケット」でアルファベット同士をぶつけてひらがなにする、ローマ字アタックゲームを作りました。ゲームを作ることで、ローマ字の決まりを楽しく覚えることができました。最初は当たり判定がうまくいきませんでした。砲台からアルファベットを発射するスピードを工夫したり、ぶつける場所を工夫したりして解決することができました。ビスケットは、自分の考えを自由にプログラミングできるところがとても楽しいです。他にも算数や漢字の学習でビスケットを使いこなす。いろいろな使い方ができるところも面白いと感じました。次はクイズやレーシングゲームを作ってみよう。もっとやりたい!! ビスケット!



西条市立国安小学校
5年 塩崎 劉都 さん

スクラッチを使って「枕草子」の景色を表すことで、一つ一つの言葉の意味をすごく考えることができました。はじめはどんなふうにも景色を表したらよいかよくわかりませんでした。けれど、スクラッチでは音や動きをつけて表せるので、いつの間にか夢中になって取り組んでいきたくてとても楽しいです。他にも考えて、どんなプログラムを使って表したらいいか工夫して取り組むと、すごく楽しくできたし、よい学習になりました。



▶ みんなのコード、応援者の声

「利根川君、君ならできる!!」

馳 浩 元 文部科学大臣

教育機会確保法の制定以降、夜間学校や不登校支援に対する理解が深まってきました。子どもたちの学びの場は学校だけではないという認識も広がってきたかと思えます。子どもたち一人ひとりに合わせた学びの場や学習計画についての考えが見直されていく中で、義務教育の中で教えられるべきことを絶えず見直していく必要もあると思います。中でも、次世代の子どもたちが、Society 5.0の時代を見据えた、ICTを活用した教育やプログラミング教育は外せない基礎教養として今後ますます必要になっていくと考えています。とくに**プログラミング教育は子どもたちが個人の関心に基づいて能力を伸ばしていける、かつ学校での学びを実社会に紐付けられるのに大変有意義な学習だと思っています。**



また、こうした認識は都心部では一定の浸透を見せていますが、離島・過疎地域との情報格差が広がっている現状も見受けられます。こうした地方での積極的な実践をコツコツ積み重ね、裾野を広げる活動を行っている**みんなのコードの活動がますます広がるようにと期待しています。**さらに、次の教育の仕組みづくりにも積極的にあってほしいと思っています。**利根川君、君ならできる!!**

すべての子どもにテクノロジー教育の機会提供を

株式会社メルカリ 取締役社長兼COO 小泉 文明

私が通っていた中学校には、当時としては珍しくmacを自由に使えるパソコン室がありました。簡単なゲームやコンピュータグラフィックスを作るのが純粋に楽しいと思い、自然とコンピュータや、インターネットを好きになっていったと思っています。テクノロジーをつかって新たな価値を創造していく力は、子どもたちに夢を与えてくれます。私の原体験は今の仕事につながっていることを感じるからこそ、すべての公立小学校でのプログラミング教育実践や、コンピュータクラブハウスの取り組みを通して子どもたちがテクノロジーに親しむ機会が増えることを期待しています。みんなのコードがんばれ!



届けよう、すべての子どもたちに

Micro:bit 教育財団 CEO Gareth Stockdale (ギャレス・スコットデール)

Coding and computational thinking are foundation skills for the 21st century. Skills that the Micro:bit Education Foundation believes every child should have access to. The micro:bit was designed to allow children to get hands on with technology, to unleash their creativity and widen participation. After beginning life in the UK the micro:bit has now spread around the world and is available in over 50 countries with national scale projects in Singapore, Denmark, Croatia, Canada to name but a few. The success of BBC micro:bit is not just down to the innovative hardware device though. It's the partner ecosystem that makes micro:bit such a powerful force for change. Code for Everyone are a key partner for micro:bit and we believe the work that they are doing throughout Japan in terms of advocacy for computer science education and on the ground training is having huge impact. We very much value the partnership and hope to continue working together in the future to deliver real change to the skills of future generations.



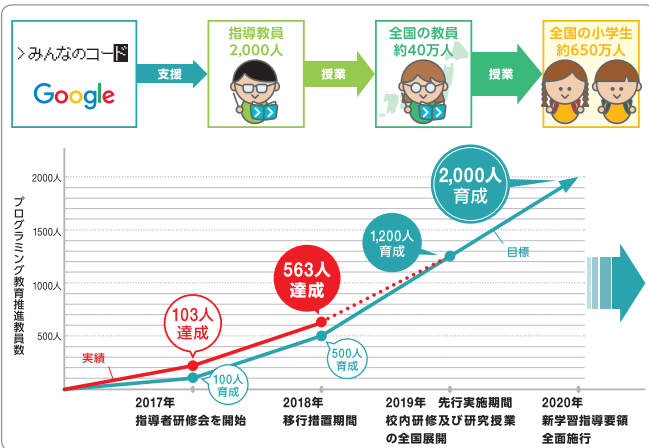
コーディングやComputational thinking (計算的思考) は21世紀には基礎となる技能です。Micro:bit教育財団は、すべての子どもたちにこの技能を身につけるチャンスが等しく届けられるべきだと信じています。micro:bitはすべての子どもたちがテクノロジーを手にし、創造力を解き放ち、誰でも参画できるようにとの思いで作られました。イギリスで生まれたmicro:bitは、現在世界50カ国以上に広がり、シンガポール、デンマーク、クロアチア、カナダなどでは国家規模でのプロジェクトが進んでいます。BBC micro:bitがこれほど普及しているのは、これが革新的なハードウェア機材だからというだけではありません。micro:bitをパワフルな武器として使い、変化を起こしているパートナーたちのネットワークがあるからです。みんなのコードはmicro:bitにとって大変重要なパートナーであり、彼らが日本全国で行っているコンピュータサイエンスに関する政策提言や各地での研修会などの取り組みは、大きな効果を生み出していると考えています。みんなのコードとの提携を心から評価するとともに、次世代のために真の変革を起こす取り組みを、これからも、ともに実現できることを期待しています。

今後の計画

みんなのコードでは、初等教育でプログラミングが必修化される2020年までに、プログラミング指導教員を育成することを目指しています。2018年度より、Google.orgと協働し、全国でプログラミング指導教員養成塾を開講。これによって、全国650万人の小学生が、プログラミングを楽しむことができる環境を実現できます。

Google とのパートナーシップ

みんなのコードの主たる活動である「プログラミング指導教員養成塾」は、世界中の地域格差を埋めることを目的としたGoogle.orgのプロジェクト「Local Love」の一環とし、Googleのご支援を受けて、2021年3月末までに全国で計2,000人のプログラミング指導教員を養成しております。



2019年度は25の自治体で実施し、のべ1400人を超える指導教員を育成します。

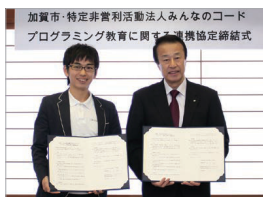


2019年度のアクション

加賀「コンピュータクラブハウス」新設（ふるさと納税）

みんなのコードは、石川県加賀市と協力して、日本国内第一号の「コンピュータクラブハウス」を、2019年5月に開設します。本プロジェクトは、ふるさと納税制度を活用し、全国からのご支援で運営されます。

※ コンピュータクラブハウスとは、1993年に米国・ボストンで初めて設立された、子どもたちに「いつでも」「安全に」「テクノロジーを知れる」場を提供するコミュニティ。現在は世界18か国で約100か所の施設が展開されている。



教員養成大学への支援

2020年度から導入される「プログラミング教育」への対応として、各教員養成大学でも対応が検討されています。みんなのコードでは、2018年1月、鎌倉女子大学の協力を得まして、教員志望の学生を対象とした「出前講座」を実施しました。また、学生対象の「プログラミング授業見学会」を開催し、小学校教員としての力量形成を支援してきました。今年度は、都内の複数の教員養成大学への支援を予定しています。



チーム紹介

代表挨拶

代表理事 利根川 裕太



ITにより社会のあり方が大きく変わる中で、普段何気なく使っているコンピュータの存在や、その仕組みについて考えるのは、もはや一部のエンジニアだけの仕事ではありません。自身の起業を通してコンピュータへの理解を深めるにつれて、プログラミングはIT社会を生きる基礎となる力だと考えるようになりました。だからこそ、プログラミングやコンピュータ自体に触れる習慣、そして社会の仕組みについて考える想像力を、これからの社会を担う子どもたちに身につけてほしいと、願うようになりました。日本でも来年度から小学校段階からのプログラミング教育が導入され、義務教育の在り方が変わろうとしています。従来の「専門職教育としてのプログラミング教育」ではなく、あらゆる領域で活用されるテクノロジーを理解する「教養としてのプログラミング教育」が必要とされています。プログラミングを楽しく体験することを通じて、子どもたちは自分の身のまわりの社会に今よりずっと興味をもってくれるはず。その上で身近な課題を自分の力で解決したいと思ってくれるような人材があふれる国として、日本を活気づけられたらと思っています。今後とも、ご指導、ご支援をよろしく申し上げます。

多様な「我がチーム」



平均年齢 38歳

2018年4月
子どものオフサイト
ミーティングで年間の
取り組みを考える

ベンチャー起業家の代表、高校教員の経験もあるCTO、教員生活30年、40年のユニークな講師陣、チャレンジスピリッツの高いフレッシュなファンドレイジング。この多様なメンバーから生まれる価値、創造性はこの上ない「強み」です。
詳しくは…みんなのコードメンバーにたずねてみてください。

私たちのバリュー

未来のDeveloperになる

私たち自身がテクノロジーを活用し、社会の課題を構造的に捉えて創造的に解決していくことで、子どもたちの未来を創っていくDeveloperになる。

多様性を強みにする

メンバーの多様な強み・弱みを把握し、違いを認め尊重する。その上で目指す姿を共有し、各々の強みを活かす協働で、チームとしての成果を最大化する。

最初×最高=最大

みんなのコードは、最初に他者が手がけていない課題解決に取り組み、最高のプロダクト・サービスを提供することで、最大の成果を出すことを常に目指す。

「みんなのコードを応援したい」

そう思ってくださったあなたと一緒に、子どもたちの未来を創りたいと考えています。

今後もみんなのコードは、学校教育に限らず全国の子どもたちがプログラミングを楽しむ国にするために活動をしていきます。現状、津々浦々の学校教育を変えるにも、学校教育の知識、ネットワークがないとなかなか難しい状況と聞きます。私たちもまだ10名にも満たない人員では、目指すビジョンに向けてリソースが足りないのも現状です。

「自分に何ができるのか考えている」「何か協力できることはないか」など考えてくださっているあなた。サポーター会員として、子どもたちがプログラミングを楽しむ国にできるような力になっていただければ幸いです。

>3つの方法があります

1

まずはSNSで繋がりを
情報収集したい



2

活動を応援したい!

単発 **3,000円以上**
からのご寄付

3

継続的に
支援/協力したい

毎月 **1,000円以上**
からのご寄付

まずは、みんなのコードサポーター会員となり、一致団結して未来を少しずつ変えましょう!

サポーター会員の登録方法

A <https://support.code.or.jp>
からサポーター会員登録

または

B 右のQRコードを
読み取って
サポーター会員登録



▶ みんなのコードは全国各地の企業さまと、 次世代のための教育改革に取り組んでいます。

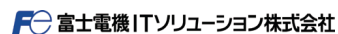
みんなのコードはいろいろな企業さまからご支援をいただき、かつ他のNPOと協力することで活動に影響力をもたせています。プログラミング教育のノウハウ提供、教材開発コンサルティング、教育関係者向けシンポジウム運営などを通して企業さまとあるべき教育環境を目指す役割を担うだけでなく、プログラミングワークショップの共同運営などを行い、地域社会と企業さまをつなぐ役割も担っています。次世代のための社会貢献に力を入れている企業さまやプログラミング教育をきっかけに社会に変革を起こしたいと考えている企業さまは、ぜひお気軽にご相談ください。

✉ info@code.or.jp 🌐 <https://code.or.jp>

みんなのコード パートナー



SOMPO
システムズ



まなびポケット



※ プログラミング教材の開発についてI-O DATA財団の助成を受けています。

発行者 > みんなのコード

特定非営利活動法人 みんなのコード 代表理事：利根川 裕太 設立：2015年7月
東京都渋谷区渋谷4-5-6 トキワビル 4F 🌐 <https://code.or.jp/> ✉ info@code.or.jp